

71

国立国会図書館所蔵の『柳洪文藁』について

竹内 尚

日本鍼灸研究会

【緒言】

『柳洪文藁』は、江戸後期の考證医家・多紀元胤（1789～1827）の諸稿をまとめたものである。諸目録によれば、伝本は全て写本で、国立国会図書館（3巻2冊）、京都大学附属図書館富士川文庫（3巻1冊）、関西大学図書館（3巻2冊）、東北大学附属図書館狩野文庫（2巻2冊）、台湾国立故宫博物院（2巻1冊、巻下を欠く）などに所蔵が確認される。本発表では、国立国会図書館所蔵本（請求記号：特1-959）について概説し、江戸後期の考證医家研究の一助とする。

【書誌について】

3巻2冊、上冊は53葉、下冊は75葉より成る。四周単辺有界、毎半葉10行、上黒魚尾、版心下部に「車修堂蔵版」と刻する用箋に墨書される。目録六葉の後、「柳洪文藁巻上／東都 丹波元胤紹翁」と題し、以下本文。全編に涉って、朱で句読し、人名には朱傍線を引く。ままた、朱による文字訂正および齧頭注記が有る。下冊末に「劉柳洪文藁借録……、質。」の識語あり。書中、しばしば筆が変わり、幾人かの筆が混じる。

【構成について】

上冊は目録および巻上・中を、下冊は巻下を著録する。

巻上は「序」を載せ、「難経愚得序」「傷寒来蘇集序」「傷寒貫珠集序」「金匱心典序」「重雕補註銅人鍼灸経序」「崔氏食経序」「和剂局方序」など、26の序文を著録する。巻中は「跋」を載せ、「重雕宋板素問跋」「呉刻内経跋」「難経集註跋」「宋槧史記扁鵲伝跋」「金匱正義跋」「金匱輯義跋」「本草衍義跋」「本草綱目跋」「五藏論跋」「黄帝蝦蟇経跋」など、28の跋文を著録する。

巻下は、「弁」「考」「医案」「書」「墓表」「詩」および附録と贅筆を載せる。「弁」は、「靈柩不載運氣之説弁」「名医別録非陶弘景所撰弁」「芍薬無飲液之功弁」の3条を、「考」は、「脛腿考」「欬嗽考」「癩瘕考」「徐氏世系考」など7条を著録する。「医案」は、5つの医案について記す。「書」は、「与曾士考論薬性討源書」「又与占春書」「与山本恭庭論諸病源候論書」「答菑庭書」など7条を、「墓表」は「雲山池原君墓表」「三浦無窮翁墓表」「軒村主善遺稿塚銘」の3条を、「詩」は「新晴」「無題」「閑居」「晏起」など13条を著録する。最後に「迂業雜存」と題する16葉におよぶ雜記を載せる。下冊は各門の間に2～6葉、合計17葉の無記葉がある。

【考察】

本書の載せるところは多岐にわたるが、「黄帝蝦蟇経跋」「五藏論跋」などのように、刊行されて目にする機会が多いものがある一方で、本書以外では目録しない記述も多々ある。中でも、現在所在不明となっている明代摸刻宋本『重広補註黄帝内経素問』に附した「重雕宋板素問跋」や、山崎次善所蔵の『新刊補註銅人腧穴鍼灸図経』の翻刻（未刊）の為に記した「重雕補註銅人鍼灸経序」などは、書誌学資料として貴重である。医案についても、元胤の治法を伺うことのできる稀少な資料であると言えよう。また、「合刻盧施統易簡方序」「蘭畹摘芳序」の2本は、それぞれ山本啓俊院、栗本瑞見の代作として記した旨が述べられており、医学館の人間関係を伺う上でも興味深い。

【結語】

本書は、元胤の序跋や医論を一覧することができ、父・元簡の医論集『医贖』とも比肩しうる好資料である。元胤の代表作『医籍考』や、『経籍訪古志』を扶翼する資料としても、より評価されてもよい一書であろう。